



里山に育む生きものたち

37 スズガモ (カモ目 カモ科)

学名 *Aythya marila*
英名 Greater Scaup

写真／川又 利彦
文／山口 萬壽美

▼ラムサール条約(※)登録候補地の野鳥

今年6月の第12回ラムサール条約締約国会議が南米ウルグアイにて開催されます。銚田市、茨城町、大洗町の3市町が、生物多様性で知られている潤沼のラムサール条約への登録を目指しています。

潤沼で観察される野鳥は224種にもなり、その中でも水鳥は142種(63.5%)と多く、羽数ではスズガモやマガモなどもカモ科が多く見られます。

スズガモは冬期にロシア方面から渡来します。その数は多く、ラムサール条約登録の基準である、個体群の1%(2500羽)を超える数が飛来しています。

▼主な特徴

スズガモの大きさは、キンクロハジロとほぼ同等の約40cm。頭部から胸部にかけて黒く、頭部は緑色光沢の輝きが美しい。背側は白地に細い波状斑があり、それが灰色に見えます。上尾筒と下尾筒は黒い。腹部と脇は白く、スズガモの存在がよく分かります。

嘴は青灰色、先端が黒く虹彩は橙黄色。雌は前身褐色で、嘴基部に幅広の白斑があり、この鳥のトレードマークのようです。

鳴き声は、雄はククー ククー、雌はクルル クルル。

▼分布

ユーラシア大陸北部、北アメリカ北部で繁殖し、ヨーロッパ、中国東北部、北アメリカ東部、西海岸等で越冬します。

す。日本へは冬鳥として全国に渡来し、潤沼で夏を過ごす個体もいます。潤沼へは主に10月頃から渡来し、シジミなどの餌が豊富な時は万羽を越す年もあります。餌が少ない時は、12月頃千葉県三番瀬等(東京湾最大の干潟)へ移動し、アサリなどを餌としているようです。

▼生息場所 内湾・港湾・湖沼

潤沼で見られる31種のカモ類の中で、キンクロハジロやスズガモなど5種類のカモ類が潜水性の海ガモです。スズガモの海水への適応性が強いことは、汽水湖である潤沼や、干潟の三番瀬を好むことから分かります。

※ラムサール条約とは

イランの都市ラムサールで、1971年に採択された条約で、正式名称は「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」です。この条約は、湿地及びそこに生息する動植物の保全と、その適正な利用の促進を目的として、次の3つの柱があります。

1. 保全・再生
…生態系として重要な湿地の保全
2. 賢明な利用
…湿地の生態系を維持しつつ、そこから得られる恵みの持続的な活用
3. 交流・学習
…湿地の保全と賢明な利用のため、情報交換、教育、啓発活動の促進

編集・発行 / 茨城町総務企画部まちづくり推進課

〒311-3192 茨城県東茨城郡茨城町小堤1080 TEL 029-292-1111 FAX 029-292-6748

ホームページアドレス <http://www.town.ibaraki.lg.jp/> メールアドレス ibarakit@town.ibaraki.ibaraki.jp

DATA

茨城町の人口と世帯数 ※カッコ内は前月比です。(住民基本台帳 平成27年3月31日現在)
◆総人口 33,609人(-64)、男 16,753人(-48)、女 16,856人(-16) ◆世帯数 12,551世帯(-27)

DATA

再生紙を使用しています



環境に優しい大豆インキを使用しています